

# 公益社団法人日本オーケストラ連盟

## 2025年度（令和7年度）事業計画

《第14期》2025年4月1日から2026年3月31日まで

### 1、交響管弦楽およびオーケストラに関する調査研究、資料および情報の収集並びに情報の共有

#### (1) 「日本のプロフェッショナル・オーケストラ年鑑2025」の刊行

当連盟では毎年、加盟オーケストラの公演数やカテゴリーごとの実施状況、楽員や事務局員の構成、財務状況等をデータにまとめ、各団体の活動状況が概観できる資料として「日本のプロフェッショナル・オーケストラ年鑑」を発行している。掲載情報には、都道府県別の公演数や加盟オーケストラの自主公演記録（公演内容）、来日オーケストラの公演情報、国外オーケストラで活躍する日本人演奏家についての状況調査なども含まれ、オーケストラを取り巻く実態を網羅した基礎資料として学校や研究機関においても学術的資料として重宝されている。また、コロナ禍における加盟オーケストラの実情などを座談会形式でまとめるなど、時代性にも言及した情報の充実も図っている。2025年度もさらに有益な情報を拡充するとともに、従来の紙媒体に加え、デジタルデータとしての普及にも一層の取り組みを行う。

#### (2) 各種レポートの発行

交響管弦楽の振興に関する事項およびオーケストラ運営について調査し、関連するデータや様々な情報を収集し発信することにより、オーケストラの発展の一助とする。

#### (3) ライブラリアン会議、ステージマネジャー会議の開催

ライブラリアン（楽譜担当）やステージマネジャー、ステージスタッフ（舞台担当）など、オーケストラ特有の専門職員同士の、各専門分野に特化した研究および研修の場として、「ライブラリアン会議」「ステージマネジャー会議」を2025年度も継続実施する。加盟オーケストラの該当職員のみならず、関連する各業界団体にも参加を呼びかけるほか、海外のオーケストラの同職スタッフのゲスト参加を企画するなど、演奏技術以外の分野でもわが国のオーケストラ全体のスキル向上、知見の蓄積を推進する。

#### (4) 基礎資料作成の調査・検討

ア) オーケストラ活動の重要性や必要性をより広く社会に理解してもらうための基礎となる資料を作成する。

#### イ) 「子どものためのオーケストラ検証プロジェクト」の実施

当連盟では、文化庁「学校巡回公演」や、加盟オーケストラが独自に実施している各種学校公演、アウトリーチ事業、親子コンサートなど、子どもを対象として様々な形で行われているオーケストラ活動が、子どもたちの成長にどのような影響をもたらしているかを検証する

取り組みとして、2015年度から「子どものためのオーケストラ検証プロジェクト」を実施している。

2025年度も継続実施し、その結果をレポートにまとめ、各所に発信・提言を行う。

#### (5) 持続可能な社会へのオーケストラの取り組み

加盟オーケストラの個々のSDGsへの取り組みを集約し、オーケストラによる持続可能な社会へのアプローチを発信する。

## 2、交響管弦楽の振興と普及のための公演および講習会等の企画・開催

### (1) 【日本オーケストラ連盟創立 35 周年記念事業】

#### 「オーケストラの日 ALLSTAR!!」の実施

オーケストラ音楽の普及と振興を目的とし、2007年、「ミミにイチバン」の語呂合わせから3月31日を「オーケストラの日」と制定。毎年この日を中心に、全国の加盟オーケストラが各地で各種演奏会や公開練習、バックステージ見学、楽器体験、指揮体験など、大人から子どもまでより多くの方にオーケストラ音楽に親しんでいただくための多彩なイベントを開催している。

首都圏では、加盟オーケストラ13団体がその日限りの合同オーケストラを編成し、特別コンサートやファミリーイベントを開催しているが、2025年度は当連盟創立35周年を記念し、「オーケストラの日 ALLSTAR!!」と題して、全国の加盟オーケストラによる合同オーケストラを編成。また、0歳から入場可能な無料のミニ・コンサートや楽器体験、オーケストラ紹介ブースなど様々な手法でオーケストラに親しみ、音楽を通じた多世代間での交流・ふれあいを促進する複合的イベントとして開催予定。

<オーケストラの日 ALLSTAR!!>

●日程：2026年3月31日（火）

●会場：ミューザ川崎シンフォニーホール 他

### (2) 文化庁芸術祭主催公演「アジア オーケストラ ウィーク 2025」の制作

文化庁芸術祭の一環として2002年にスタート、当連盟の制作により過去22回の開催実績を誇る事業。アジア太平洋地域のオーケストラに特化した世界初の、かつアジア最大規模のオーケストラの祭典。これまでに16の国と地域から60を超えるプロ・オーケストラが参加している。

2025年度も文化庁から制作業務を受託し、下記の概要で実施する。

<アジア オーケストラ ウィーク 2025>

●日程：2025年10月4日（土）～10月14日（火）

●会場：兵庫県立芸術文化センター、ミューザ川崎シンフォニーホール 他

●実施内容（予定）：

- ・兵庫芸術文化センター管弦楽団公演（10/4）
- ・香港フィルハーモニー管弦楽団公演（10/13,14）
- ・両楽団参加によるシンポジウム
- ・大阪・関西万博関連イベント等における出張演奏
- ・「アジア オーケストラ ウィーク」PR 動画および公演ダイジェスト動画の  
収録・制作および配信

### (3) 令和7年度文化芸術振興費補助金舞台芸術等総合支援事業（学校巡回公演）

#### の事務局業務受託

全国の小学校・中学校等においてトップレベルの文化芸術団体による巡回公演を行うことを通じて、将来を担うすべての子どもたちの豊かな感性を育む場を作り、芸術鑑賞能力の向上を図るとともに、文化的な地域格差の解消を促進することを目的とした事業。対象となる学校ごとにワークショップ（実演指導または鑑賞指導）と体育館等での実演（演奏会）をセットで実施する。当連盟加盟オーケストラにとっても非常に重要な基幹的活動のひとつとなっている。

当連盟は統括団体として本事業の事務局業務の一部を受託。事業実施主体である日本芸術文化振興会および事務局運営を担う民間運営事業者と密接に連携するとともに、本事業に参加する加盟オーケストラのサポートを行うことで、本事業をより効果的で継続可能な活動とするための様々な調整業務を担う。

### (4) 令和7年度文化芸術振興費補助金舞台芸術等総合支援事業（全国キャラバン）の開催

コロナ禍からの文化芸術再興を目的とし、文化庁補正予算により令和3～5年度で実施された「アートキャラバン」事業を受け継ぐ形で、令和5年度から新たにスタートした「全国キャラバン」事業。全国における大規模で質の高い公演等の実施を支援することを通じて、国内における文化的な地域格差を解消するとともに、統括団体による新たな活動拠点の形成を促進することを目的として実施される本事業に、当連盟も3年連続で参加する。

当連盟は統括団体として、加盟オーケストラからの参加を募り、令和5年度からの3ヶ年計画で参加している3団体を含む9団体計11公演（応募時）全公演の主催者として本事業の運営統括業務を担う。

### (5) 日本オーケストラ連盟創立35周年記念事業

1990年7月に発足した日本オーケストラ連盟は、2025年に創立35周年を迎える。ますます混迷を極める現代社会において、当連盟加盟の40のプロフェッショナル・オーケストラが、国内トップレベルの芸術文化団体として高い芸術性と豊かな個性を発揮しつつ、これまで以上に求められる社会的役割を果たしていくためには、組織、財政、人材等の基盤整備が急務である。

連盟創立35周年を記念し、わが国のプロ・オーケストラを取り巻く諸課題に対し、統括団体として取り組むべき活動を以下の2本の柱で事業化し、日本社会、さらには世界における日本のプロ・オーケストラのプレゼンス向上を目指す。

## ア) 日本のオーケストラを発信する

### ～日本オーケストラ連盟（統括団体）としての発信力強化とブランディング～

若者や普段クラシック音楽にあまり縁のない人、ファミリー層を主なターゲットとし、当連盟から国内外に向けた情報発信強化のための新たなプラットフォーム（オウンドメディア）を立ち上げる。経済的基盤や事務局体制、リテラシー、スキルの別なく、すべての加盟オーケストラが平等に発信することを可能とする。また、将来的には海外のクラシック音楽プラットフォーム等との連携を目指す。

## イ) オーケストラの持続可能な活動基盤を強化する

### ～オーケストラ・マネジメント人材の安定的な調達および育成～

オーケストラを取り巻く人材育成の共通課題解決を目的とし、団体・組織を超えた「同世代」「同職種」同士の学びと交流の場の創出を目的とした、「合宿スタイル」での合同研修会を定期開催する。

## (6) 講習会、セミナー等の開催

ますます複雑化する社会情勢において、加盟オーケストラが芸術文化団体として社会的役割を全うするために、組織運営の基盤強化が重要である。コンプライアンス、労務管理、危機管理、公益法人制度改定等、様々な法令の改変や社会的課題に対応するための各種講習会やセミナーなどを実施するほか、文化庁「学校巡回公演」担当者や経理・総務等バックオフィス業務担当者を対象とした情報交換会を開催する。また、加盟40団体が参加する「夏季研修大会」を下記の通り開催し、加盟オーケストラ共通の諸課題を共有、業界全体としての課題対応力を強化する。

### <2025年度夏季研修大会>

●日程：2025年8月18日（月）～20日（水）

●会場：レグザムホール（香川県県民ホール）、サンポートホール高松

## (7) インターンシップの推進

インターンシップ制度は、若者の人格形成および社会人としての多様な価値観の醸成において極めて重要であり、芸術文化団体が担うべきミッションのひとつであるため、当連盟でも継続的に推進している。また、加盟オーケストラにおいても昨今の人材不足は深刻さを増しており、次代の担い手を自ら育成する機会としてもインターンシップ制度の重要度は増している。

2025年度もその活動を継続し、当連盟が窓口となって一般大学、音楽大学等の学生と加盟オーケストラとの橋渡しを行うことで、プロフェッショナル・オーケストラでの実地研修の機会、オーケストラにとっては次代の担い手との接点を創出する。

## (8) その他の活動

### ア) 「アフィニス夏の音楽祭」への協力

公益財団法人アフィニス文化財団が主催する「アフィニス夏の音楽祭」は、全国各地のプロ

フェッショナル・オーケストラのメンバーと世界のオーケストラの首席奏者らが集まり、集中的に室内楽の名曲に取り組む、日本で唯一のプロフェッショナル・プレイヤーによるセミナー音楽祭。2025年度も、昨年に続き香川県高松市を会場として開催される。当連盟も協力団体として様々な運営協力を行う。

<アフィニス夏の音楽祭 2025 かがわ>

- 日程：2025年8月13日（水）～21日（木）
- 会場：レクザムホール（香川県県民ホール）他

#### イ）日本音楽財団との共同事業の実施

公益財団法人日本音楽財団が保有するストラディヴァリウス等の楽器の被貸与者が、加盟オーケストラの主催演奏会等にソリストとして出演することを目指し、加盟オーケストラへの紹介および調整を行う。

### 3、青少年に対する交響管弦楽の普及

#### (1) 復興支援演奏会の実施

全国の自然災害などの被災地にある学校や施設などに、加盟オーケストラから楽員を派遣し、音楽による「心の復興」を支援する活動。当連盟が旗振り役となって様々な団体等に協力を呼びかけながら、能登半島地震（2024年発生）の被災地支援継続をはじめ、2025年度も積極的な取り組みを継続する。

#### (2) 東京都主催「子どもたちと芸術家の出あう街」の制作協力

オーケストラのみならず、多様なジャンルの芸術家がワークショップやアウトリーチ活動などを通して子どもたちに芸術文化を身近に体験してもらうことを目的とした東京都の事業。当連盟は実行委員会委員長および構成団体として協力する。

### 4、交響管弦楽に関する国際交流

#### (1) 【日本オーケストラ連盟創立 35 周年記念事業】

##### 「アジア・オーケストラ・サミット 2025」の開催

1997年から2018年にわたり、アジア太平洋地域のオーケストラ界における相互の情報交換、国ごとのネットワーク構築を目的とし、当連盟が中心となって「アジア太平洋地域オーケストラサミット」を継続的に開催（計12回）してきた。コロナ禍での中断を経て、2025年度、当連盟創立35周年記念事業の一環として再開する。

サミットには開催当初より、各国のオーケストラ界を牽引する立場の方々が多数参加され、サミットがきっかけとなって多くの交流機会が生まれ、わが国を含め友好的な関係が構築されてきた。「オーケストラ連盟国際オンライン会議」等でも、各国から日本でのサミット開催

を待ち望む声が多く寄せられている。

今回のサミットをきっかけに、当連盟加盟オーケストラの海外での活動強化や国際競争力の向上、日本のオーケストラ文化の海外に向けた発信力を強化する。また、今後もサミットを継続開催することによって、当連盟が「アジア太平洋地域オーケストラ連盟」の再結成を牽引し、日本のアジア太平洋地域におけるオーケストラ文化のリーダー的存在としてのプレゼンス強化を目指す。

## (2) オーケストラ連盟国際オンライン会議の定期開催

当連盟の呼びかけにより、海外のオーケストラ関連機関（各国のオーケストラ連盟等）、音楽関係者等とのオンライン会議を 2023 年度から開催している。各国のプロフェッショナル・オーケストラを取り巻く状況や課題の共有、意見交換を通して、わが国の芸術団体が置かれている現状を客観的に捉える貴重な機会となっている。

2025 年度も年数回の開催を予定。当連盟加盟オーケストラ事務局からも参加を促すなど、実施規模を徐々に拡大することで、国内オーケストラの海外におけるブランディングや国際競争力の獲得などに繋げていくことを目標とする。

## 5、音楽を通じて人々の健康で心豊かな暮らしに寄与しうる事業

民間音楽助成財団と当連盟との協働事業として、新たな親子向けオーケストラ・コンサート企画を立案中。コンセプトは、親と子がともにオーケストラ音楽に触れ、楽しみ、ふれあうことを通して、親子の絆や信頼を育むことのできる体験・参加型の公演。2026 年度以降、複数年規模での全国展開を目指す。

## 6、その他この法人の目的を達成するために必要な事業

### (1) 「日本オーケストラ連盟ニュース」の発行

公益社団法人日本オーケストラ連盟の機関誌として年 3 回（7 月、11 月、3 月）発行。当連盟の活動報告、加盟オーケストラの様々な活動紹介、日本のオーケストラ業界を取りまく各種情報、調査研究レポート、様々な特集記事などを通して、オーケストラの魅力や存在意義を社会に向けて発信することによって、わが国のオーケストラ文化の継続的な発展、活動基盤の拡充に寄与することを目的とする。

また、加盟 40 団体の公演情報を掲載することで、コンサートガイドの役割も果たしている。

### (2) 「日本のオーケストラ」作成

日本全国で活動する当連盟加盟オーケストラ 40 団体が展開する様々な活動や運営状況を網羅し、プロ・オーケストラの存在をより身近に感じていただくための、わかりやすく、親しみやすいパンフレットを作成。全国の公立文化施設や各種教育機関などで配布する。

### (3) 他の実演芸術団体等との連携

わが国における実演芸術の確固たる基盤を強化するため、公益社団法人日本芸能実演家団体協議会（芸団協）、芸術家会議、文化芸術推進フォーラムの一員として、他の文化芸術団体（一般社団法人緊急事態舞台芸術ネットワーク、一般社団法人日本クラシック音楽事業協会、公益社団法人全国公立文化施設協会（全国公文協）等）とも有機的に連携を図り、文化芸術振興議員連盟や文化庁など、国政レベルとの様々なパイプを確保、多チャンネルでの交渉力を強化する。

## 7、その他の事業

### (1) 著作権代行事業

一般社団法人日本音楽著作権協会（JASRAC）との協定により、加盟オーケストラの演奏会において使用する音楽著作物に係る著作物使用料の包括的使用申請と使用料の徴収および支払いを行う。

また、本事業を通じて集約、集積している演奏会記録は、「日本のプロフェッショナル・オーケストラ年鑑」の公演記録に採録されるなどわが国のオーケストラ公演活動の貴重な記録（データ）としても活用されている。

### (2) 共同広告事業

演奏会の宣伝媒体の利用形態が変わり利用がない状態が続いているため、実施しない。

### (3) 互助会事業

指揮者・故小澤征爾氏、チェロ奏者・故ロストロポーヴィチ氏および NHK 交響楽団が無償出演したコンサートの収益金を原資に、病気や怪我で3ヶ月以上活動できない状態にある加盟オーケストラ所属の楽員・職員を対象とした、無利息の貸付制度による互助事業を行っている。今後のより有効な活用法について検討を進める。

以上